

たまねぎレポート【第412号】



令和4年2月26日

社内報

阪南青果株式会社

1月の日本の天候は、気温は、東日本で低く、沖縄・奄美で高くなった。降水量は、北日本の日本海側でかなり多かった。北海道のオホーツク海側で記録的な大雪があった。日照時間は、西日本の日本海側でかなり多かった。2月は、全国的に低温傾向で北海道地方では、過去に例を見ない大雪に見舞われた。

気象庁の3～5月の3か月予報では、平均気温は、北日本で高い確率50%、東日本で平年並み亦は高い確率ともに40%。沖縄・奄美で平年並み亦は低い確率ともに40%。降水量は、沖縄・奄美で平年並み亦は少ない確率ともに40%。月別予報は次の通り。

3月、北日本の日本海側では、平年に比べ曇りや雪または雨の日が少ない。東日本の日本海側では、天気は数日の周期で変わるが、平年に比べ曇りや雨

亦は雪の日が少ない。西日本の日本海側では、天気は数日の周期で変わる。北日本の太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い。東・西日本の太平洋側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い。沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わるが平年に比べ曇りや雨の日が少ない。

4月、北・東日本の日本海側では、天気は数日の周期で変わる。北・東日本の太平洋側と西日本では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い。沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わるが平年に比べ曇りや雨の日が少ない。

5月、北日本では、天気は数日の周期で変わる。東・西日本では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い。沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多い。

野菜の概況

建値市場の1月の野菜の販売量は、198,483トン前年比97%(前月比88%)、平均単価はkg ¥234前年比101%(前月比104%)。市場別には多少のバラツキがあるものの、総じては入荷減の単価はやや高めとなっている。市場別の販売量と平均単価は、札幌市場の販売量は前年比94%、平均単価はkg ¥207前年比109%。東京市場の販売量は前年比96%、平均単価はkg ¥247前年比99%。名古屋市場の販売量は前年比96%、平均単価はkg ¥234前年比105%。大阪本場の販売量は前年比97%、平均単価はkg ¥232前年比104%。福岡市場の販売量は前年比99%、平均単価はkg ¥176前年比97%となっている。

建値市場の1月の玉葱の販売量は20,266トンで前年比83%、(前月比82%)、平均単価はkg ¥176前年比205%(前月比109%)。市場別には多少

のバラツキはあるものの総じては、入荷減の単価高となっている。市場別では、札幌市場の販売量は3,112トン前年比86%、平均単価はkg¥136前年比227%。東京市場の販売量は7,977トン前年比84%、平均単価はkg¥190前年比202%。名古屋市場の販売量は4,824トン前年比83%、平均単価はkg¥165前年比194%。大阪本場の販売量は2,624トン前年比68%、平均単価はkg¥199前年比224%。福岡市場の販売量は1,729トン前年比103%、平均単価はkg¥180前年比196%となっている。1月は福岡市場だけが前年比増、大阪本場は引き続き前年比大幅減となっている。

日本農業新聞社の調べでは、主要7地区代表卸7社の1月の主要野菜14品目の販売量と単価は、販売量が90,372トン前年比3%減、平年(過去5年平均値)比1%減。平均単価はkg¥144前年比2%高、平年比4%安となっている。コロナのまん延防止等重点措置の適用拡大で、学校給食や飲食店の需要が再び減退。昨年からの低迷を引きずる品目が目立った。と伝えている。

販売量が前年比増の品目は、ネギが前年比16%増、ナスとピーマンが9%増、ホウレンソウと・ピーマン・サトイモが2%増などの8品目。販売量が前年比減の品目はジャガイモが前年比16%減、サトイモが14%減、トマトが12%減、タマネギが10%減など5品目。前年と同量がキュウリ1品目。前年比高となった品目はタマネギがkg¥150で前年比100%高、ジャガイモがkg¥204で18%高、トマトがkg¥293で15%高、レタスがkg208で8%高など4品目。前年比安の品目は、ネギがkg¥271で前年比34%安、ニンジンがkg¥81で29%安、キャベツがkg¥69で17%安、ダイコンがkg¥65で14%安など10品目となっている。

東京都中央卸売市場の1月の野菜の入荷量は、111,631トン前年比98%(前月比91%)。平均単価はkg¥247前年比99%(前月比103%)となっ

ている。入荷は前年比やや減で、価格は前年比やや安く、前月比でやや高くなっている。前月に続き、タマネギ、バレイショが前年比大幅高、ネギ、キャベツが大幅安となっている。

主要15品目で入荷が前年比増の品目は、キャベツが前年比116%、ネギが111%、ナスが110%など5品目。入荷が前年比減の品目は、たまねぎが前年比84%、トマトが88%、ホウレンソウとバレイショが91%など9品目。価格が前年比高の品目は、タマネギがkg¥190で前年比202%、バレイショがkg¥241で121%、レタスがkg¥274で118%。トマトがkg¥339で113%など5品目。前年比安の品目はネギがkg¥256で前年比61%、ニンジンがkg¥100で71%、サトイモがkg¥278で75%、キャベツがkg¥79で79%。など10品目となっている。

東京都中央卸売市場の1月の入荷量と単価

| 品 目 | 入荷量 (t) | 前年比 (%) | 前月比 (%) | 単 価 (¥/kg) | 前年比 (%) | 前月比 (%) |
|-----------|------------|------------|------------|---------------|------------|------------|
| 野 菜 総 数 | 111,631 | 98.3 | 90.7 | 247 | 99.4 | 103.4 |
| た ま ね ぎ | 7,977 | 84.2 | 89.2 | 190 | 202.4 | 104.4 |
| キ ャ ベ ツ | 15,005 | 116.4 | 107.2 | 79 | 79.2 | 141.1 |
| は く さ い | 13,901 | 92.6 | 90.5 | 39 | 105.3 | 114.7 |
| だ い こ ん | 10,315 | 97.3 | 95.7 | 77 | 84.7 | 128.3 |
| に ん じ ん | 6,558 | 96.6 | 76.6 | 100 | 70.8 | 97.1 |
| ば れ い し ょ | 6,305 | 91.0 | 91.7 | 241 | 121.3 | 112.6 |
| レ タ ス | 5,984 | 99.8 | 90.7 | 274 | 117.7 | 140.5 |

| | | | | | | |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|------|
| トマト | 5,215 | 87.8 | 116.5 | 339 | 113.4 | 75.0 |
| ねぎ | 5,065 | 110.7 | 88.9 | 256 | 60.7 | 98.5 |
| かぼちゃ | 1,760 | 104.7 | 71.4 | 187 | 91.7 | 82.7 |
| ながいも | 640 | 81.5 | 78.7 | 275 | 88.6 | 91.1 |
| れんこん | 630 | 68.2 | 54.5 | 537 | 138.9 | 90.0 |
| にんにく | 192 | 102.7 | 86.1 | 1,076 | 84.9 | 96.8 |

玉葱の概況

需要(市場)の動き

東京市場

東京都中央卸売市場の1月の玉葱の入荷量は7,977トン前年比84%(前月比89%)。主力の北海物の入荷は6,685トン前年比81%、占有率は84%前年比1ポイントダウン。静岡物は予想を大幅に下回り、780トン前年比77%、占有率は10%前年比1%ダウン。中国物は447トン前年比351%、占有率は6%前年比5ポイントアップ。総平均単価はkg¥190前年比202%(前月比103%)。産地別では、北海物はkg¥185前年比233%。静岡物はkg¥272前年比132%。中国物はkg¥121前年比116%。となっている。

2月に入ってから、静岡の新物の入荷は一向に増えないし、愛知・長崎・佐賀も顔見世程度の入荷で、品薄高の相場が続く。北海物の少ないのは承知しているものの、少な過ぎて販売に苦労が絶えない。昨今では、静岡物に増加傾向が見られるものの、入荷は特定の卸に集約され、全体の出回り量は少ない。静岡以外はいずれの早生産地も、冷え込みが続き球肥大が遅れ、断続的な入荷で、連続出荷は3月になる。北海物の入荷は少ないことに加えて、度重なる

大雪で輸送が乱れ不安定化し、品不足が深刻化している。

2月1日～19日の入荷量は6,173トン前年比82%、平均単価はkg¥204前年比194%。前月と同様で静岡物のお荷は最盛期にも拘らず予想を大きく下回り、中国物が前年比3倍に増加した。産地別では、北海物のお荷は4,849トン前年比83%、平均単価はkg¥194前年比237%。静岡物は905トン前年比61%、平均単価はkg¥279前年比149%。中国物は296トン前年比287%、平均単価はkg¥112前年比98%。となっている。

名古屋市場

名古屋市中央卸売市場の1月の玉葱販売量は4,824トン前年比83%(前月比74%)で前年比、前月比とも大幅減となっている。主力は北海物で、販売量は4,444トン前年比83%、占有率は92%前年比1ポイントダウン。静岡物は254トン前年比67%、占有率は5%前年比2ポイントダウン。中国物は100トン前年比404%、占有率2%前年比2%アップ。愛知物は20トン前年比104%。総平均単価はkg¥165前年比194%(前月比111%)。産地別の平均単価は、北海物はkg¥157前年比207%。静岡物はkg¥315前年比148%。中国物はkg¥113前年比138%。愛知物はkg¥307前年比123%となっている。

2月に入ってから、北海物のお荷は計画量が少ないことに加え、積雪による輸送便の乱れが長引き、品不足が続いている。静岡物もやや増加傾向にあるものの、予告された数量にはほど遠い。地場産地の愛知物も冷え込みによる生育遅れで、顔見世程度のお荷である。深刻な品不足が続く、高値承知で北海物を転送業者から買い集めている。昨今では、転送品の手当ても困難で、価格に拘わらず、集荷出来なくなっている。3月は更に品不足が深刻化する可能性が高い。輸入物も思考しているが、仲卸の興味が薄く、導入を控えている。

大阪本場

大阪市中心卸売市場本場の1月の玉葱の販売量は、2,624トン前年比68%(前月比73%)で前年比、前月比とも大幅減であった。特に北海物の入荷減が顕著であった。産地別の販売量は、北海物が2,032トン前年比60%、占有率77%前年比11ポイントダウン。兵庫物は415トン前年比136%、占有率16%前年比8ポイントアップ。静岡物は139トン前年比81%、占有率5%前年比1ポイントアップ。総平均単価はkg¥199前年比224%(前月比121%)。品不足が深刻化し相場は一段高となった。産地別の平均単価は、北海物がkg¥180前年比244%。兵庫物はkg¥261前年比150%。静岡物はkg¥303前年比131%となっている。

2月に入り、北海物の在庫減を踏まえ、静岡物を始め府県産の新物増を期待したものの、いずれの産地も低温が続き、球肥大が遅れ入荷は予想を下回った。入荷増は兵庫の冷蔵物だけで、仲卸は品質を警戒しながらも玉葱の品不足を背景に、堅調相場を維持している。入荷増を期待した静岡物は最盛期を迎えても一向に増えず、品不足で割り当て販売が続いている。2月の北海道は、過去にない大雪に見舞われ、輸送便が乱れ入荷が不安定化して、北海物の品不足が深刻化している。

2月5日～19日の販売量は2,028トン前年比68%、平均単価はkg¥207前年比225%。産地別では、北海物は1,508トン前年比63%、平均単価はkg¥186前年比255%。兵庫物は273トン前年比147%、平均単価はkg¥243前年比149%。静岡物は181トン前年比63%、平均単価はkg¥300前年比151%。長崎物は41トン前年比119%、平均単価はkg¥324前年比179%となっている。年明け以降の冷え込みで、新物の生育がやや遅れ気味である。

福岡市場

福岡市中央卸売市場の1月の玉葱販売量は、1,908トン前年比103%(前月比91%)で、前年比増、前月比減となっているが、前年比増は福岡市場だけである。北海物が主力で、北海物の販売量は1,400トン前年比90%、占有率81%で前年比12ポイントダウン。中国物は252トン前年比332%、占有率15%前年比10ポイントアップ。愛媛物は42トン前年比375%、占有率2%で前年比1ポイントアップ。総平均単価はkg¥180前年比196%(前月比107%)で前年比、前月比高となっている。産地別の平均単価は、北海物はkg¥189前年比215%。中国物はkg¥104前年比105%。愛媛物はkg¥258前年比122%。となっている。

2月に入って、長崎の新物の入荷が始まり、2週目には日量5~10トンの入荷となったが、品質的には未熟傾向で今ひとつの品物が多かったものの、産地が強気で指値が高く売り辛かった。月半ばから、佐賀物の走りも入荷したが、北海物主力の販売であった。北海物の直送品は、過去に例のない大雪に見舞われ輸送が乱れ、着荷が少なく苦心した。輸入物も視野に入れたものの、買参人は輸入物に興味薄で、価格に拘わらず北海物を集めざるを得なかった。昨今、長崎物は出荷期を迎え、日量30トン前後の入荷となり、荷動きは鈍化傾向にある。球流れは、L中心で2Lは少ない。佐賀は、白石物の走りが入荷しているが、2Lは殆どなく、やや小振りで指値は何処よりも高い。新物は、此の先最盛期を迎え3月は軟調相場となるが、北海物は入荷減で引き合い強く、価格に拘わらず集荷困難と見ている。愛媛の冷蔵物は今週で終了する。

2月1日~19日の玉葱の販売量は1,332トン前年比99%、平均単価はkg¥195前年比213%。前年に比べ入荷は微減で価格は大幅高となっている。

2月24日(木)の建値市場の玉葱市況は次の通り

【札幌市場】 入荷235トン 保合

北 海 20kgDB2L ¥4,500～4,300、 L大 ¥4,500～4,300、 L ¥4,200～3,900、
M ¥3,000～2,900。

静 岡 10kgDB L ¥3,800～3,500、

【太田市場】 入荷188トン 強保合

北 海 20kgDB2L ¥4,800～4,700、 L大 ¥5,000～4,500、 L ¥4,400～4,200、
M ¥3,000～2,800。

静 岡 10kgDB2L ¥2,700～2,500、 L ¥3,000～2,800、 M ¥2,800～2,600、
B ¥2,600～2,500。

長 崎 10kgDB2L ¥2,500～ L ¥3,000～ M ¥2,800～

佐 賀 10kgDB2L ¥2,800～ L ¥3,200～ M ¥2,900～

S ¥2,300～

【名古屋北部市場】 入荷83トン 保合

北 海 20kgDB2L ¥5,000～4,500、 L大 ¥5,000～4,300、 L ¥4,800～4,000、
M ¥3,000～2,800。

静 岡 10kgDB2L ¥2,700～2,600、 L ¥3,100～3,000、 M ¥2,800～2,700、
B ¥2,600～2,500。

愛 知 10kgDB2L ¥2,600～2,500、 L ¥3,000～2,900、 M ¥2,800～2,700、
B ¥2,600～2,500。

【大阪本場】 入荷97トン 強い

北 海 20kgDB2L ¥4,500～4,400、 L大 ¥4,500～4,400、 L ¥4,300～4,000、
M ¥3,000～2,800。

兵庫冷蔵 10kgDB2L ¥2,400～2,000、 L ¥2,800～2,600、 M ¥2,300～2,100。

静岡 10kgDB2L ¥3,000～2,800、 L ¥3,500～3,300、 M ¥3,000～2,800、
兵庫新玉 10kgDB2L ¥2,800～2,700、 L ¥3,200～3,000、 M ¥2,800～2,700。

B ¥3,000～2,800。

長崎 10kgDB2L ¥3,000～2,700、 L ¥3,200～3,000、 M ¥3,000～2,700、

S ¥2,000～1,800。

熊本 10kgDBL ¥3,000～ M ¥3,000～

大阪 10kgDB2L ¥ ~ L ¥ ~ M ¥ ~

【福岡市場】 入荷134トン 保合

北海 20kgDB2L ¥5,000～4,500、 L大 ¥5,000～4,500、 L ¥4,800～4,000、

M ¥3,500～3,200。

愛媛冷蔵 10kgDB2L ¥2,400～2,300、 L ¥3,600～2,500、 M ¥2,300～2,200。

長崎 10kgDB2L ¥2,700～2,500、 L ¥3,000～2,800、 M ¥3,000～2,800。

佐賀 10kgDB2L ¥2,800～ L ¥3,200～ M ¥3,000～

供給(産地)の動き

2月になり、北海道物の出回りは日々減少傾向となり、府県の新物の出回りは日々増加傾向になると予想されたが、予想外の冷え込みが続いたことで、府県の早生物の球肥大が停滞し、新玉の出回り量は予想を下回った。市況高を反映して輸入物も大幅に増え、北海物の品不足を多少とも補充が出来、2月後半からの市況は軟化傾向を辿ると予想していたが、輸入量は予想を大きく下回った。従って玉葱の需給は品不足が深刻の度合いを深め、月後半の市況は予想外れの一段高となった。

3月は、府県物の出回り量は日々増加傾向となるものの、北海物は終盤期を迎え、2月以上に減少する。府県の新物は静岡が終盤期に入るが、長崎・佐

賀・愛知を始め、市況高を背景に各地に点在する極早生物が出廻る。通常3月半ばから、需要は旬を迎えて増加傾向となるが、コロナの収束遅れで伸び率低下が予想される。昨今の異常高の反動安となる可能性はあるものの、当面品薄高傾向が続き、市況は平年に比べ高値の展開になると予想されている。

北海道産地

3月には、JA、商系を問わず、出荷終了の銘柄が多くなり、貯蔵施設のあるJAメインとなり、出荷量は日々減少する。生産者は次シーズンの育苗に懸命になる時期である。産地では、今年は年明けから積雪が多く、苗床管理に最大限の注意が求められている。早や植えは収穫増につながると言われているが、現在も過去に例を見ない残雪の多い地区が多く、播種・定植の遅れが心配されている。

府県産地

冷蔵物の主産地である兵庫(淡路島)の出荷は順調で、淡路玉葱冷蔵協会の調べでは現在の在庫は46,800ケース前年比95%。他に他県産(加工向けを含む)が159,700ケース前年比71%となっている。現在、JAの出荷は終了しているが、商系の出荷は新玉に移行するまで続く。商系の販売方法は多様で、市場出荷がメイン、ムキ玉納入がメイン(周年淡路物を求める納入先もある)、量販店納入がメイン。と多様化している。出荷方法により収益差が大きく、今シーズンは稀に見る高収益となったが、市場出荷が最大の収益を上げている。

現在、生産者は、今シーズンの肥培管理に取り組んでいるが、昨秋の天候不良で、苗立ち不良となった苗床や生産者の高齢化もあり、多少の減反となっている。生育は年初来の低温で普通早生が遅れている。極早生は生育良好で抜き取り出荷が始まっている。

長崎は極早生の最盛期となっているが、球肥大が遅れ収量は伸びていない。

例年に比べると分球・裂球は少ない。高値市況を反映して、若採りになったと思われる。今年は北海物の入荷減で、九州市場の割高市況が続いているので、九州市場重点の出荷となっている。

佐賀では、定植後の低温と雨不足で、生育は全体的に遅れている。特に、マルチ栽培の減反が目につく。詳細は入手していないが、中心産地の白石地区では前年比10%前後の減反と見られているが、早生の減反率よりも中晩生の減反率が高い。マルチ早生の出荷は3月後半になる。低温が続くなかで、ベト病の発生が散見され、気を揉んでいる。

輸入動向

1月の輸入は速報値で、23,882トン前年比162%。国際的なコロナ禍の影響で、輸送難を始め、諸費用の値上がり等で、輸入量は予想量を下回ったが、前年比では大幅増となった。主力の中国物は20,995トン前年比144%。アメリカ物が2,084トン前年比974%。オランダが471トンで前年は輸入なし。スペインが176トン、前年はなし。タイが24トン、前年はなし。となっている。

中国、旧正月に向けて、価格は一時下げに向かったが、2月初めの入荷は旧正月の関係で減少している。現在の産地は雲南省で、価格は20kg・C&F、ムキ玉\$11.00、皮付き\$9.50になっている。

ニュージーランド、既報の通り、高温・早魃で球伸びが今ひとつで小粒傾向である。他国と同様に船積みのスペース確保が厳しく成約は少ない。日本向けの現在価格は、65～75mmサイズ・20kg・C&F・¥1,900である。

3月の市況見通し

2月の玉葱市況は、月前半は一段高となるも、月後半は軟化すると予測したもの、府県の早生物の入荷遅れと、輸入物の予想外の数量減で、昨今は品

不足が深刻化し、市況は一段高の展開となっている。3月も新物の入荷が大幅に増えない限りは、供給不足で高値が続くことになる。通常、需要は3月後半から新物が旬を迎え、4月、5月と順増するが、昨今の異常高値の反動で需要減（買い控え）の兆しが見受けられる。輸入物は割安でも敬遠する市場が多く、3月は入荷減の北海物は高値を維持する可能性はあるものの、新物は軟化しKg ¥100程度値下がりすると見ている。然し、新物も抜き掘り出荷や若採り出荷が続くと、収量減となり、4月の出回り量に大きく影響する。（了） 笹野敏和 記